

13 大瀧 あずさ さん Azusa Otaki

企

北勢

四日市市自治会連合会事務局（四日市市）
事務局長

事業所

住所：三重県四日市市諏訪町 1-5 四日市市役所北館 1 階

社員数：2 名

業種
自治会事務



Profile

- ・専業主婦から自治会事務局のパート職員に
- ・翌年の組織変更で、事務局を一手に任される
- ・防災における女性目線の必要性を自治会に進言
- ・女性の視点満載の避難所運営手引きを制作

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO 設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他

講演実績

「私の使命」

主婦パートが自治会の事務局を一手に…

住民同士が自治組織を形成し、地域の福祉・防災・環境整備等に取り組む“自治会”。近年では相互共助意識が希薄になり、自治会が解散したというニュースも。

「三重県四日市市の自治会加入率は約 85%。これは全国的にも高い割合です」。そう解説する大瀧さんは、四日市市自治会連合会（以下、四自連）の事務を担って 14 年。四自連とは、市内 725 の自治会をまとめる連合組織。市内を 28 の地域に分け、それぞれに連合自治会長が置かれています。大瀧さんの役割は、行政と 28 の連合自治会を結び運営事務。

「元々はブランク 10 年の子育て主婦でした。パートの事務職に応募したつもりだったのに、いきなり事務局を一手に任せられ、戸惑いもありました」。

地域の備蓄倉庫に女性用生理用品は？

四自連が独立組織となった 2005 年までは、市職員が事務職を代行していました。その頃ちょうど採用されたのが大瀧さん。「何も分からない私を、28 人の連合自治会長さんは、よく助けて下さいました」。

ある日、大瀧さんに一つの疑問が浮かびました。“市内の自治会防災倉庫に、生理用品や化粧水の備蓄は？”。自治会長にたずねてみると、早速生理用品が備蓄されることになりました。

「東日本大震災以降、弱者への防災対策が見落とされがちと、各地で議論されています」。大瀧さんは、女性／乳幼児／高齢者／障がい者など、多様な人々の視点に立ち、きめ細やかな防災対策を四日市市でも進めていくよう、率先して啓発しています。

私流リーダーシップ

女性の視点を入れた『避難所運営の手引き』完成

28 人の連合自治会長は、全員男性。「中には私の父親に近い年代の方も。皆さん地域のためにと立ち上がった優しい方ばかり」。女性や子ども、高齢者や障がい者などの社会的弱者を災害時にどう保護するかは、各自治会長の強い関心事でした。

そこで大瀧さんの声から四自連で出したアイデアは、女性の視点を取り入れた避難所運営手引きの制作。四自連と、四日市市地区防災組織連絡協議会が一体となり、四日市市危機管理室に企画・提案。大瀧さんは、資料整理や連絡窓口を務めました。

こうして手引きは 2015 年度に完成、市の HP でも公開中です。先の熊本地震や西日本豪雨災害の際には、現地の避難所運営に役立てられたほどの充実ぶりです。

地域にもっと女性防災グループを

四自連が 2018 年度に取り組んでいる課題は、案内プレート。「避難所運営では迅速な“スペースの割り振り”と“通路の確保”が重要と知りました」。更衣室や授乳室などの用途ごとに、誰にでも分かりやすく、災害時すぐに活用できる案内プレートを大瀧さんは検討中です。

さらに四自連では“女性防災グループ”の結成にも力を注ぎます。2017 年度は段ボールベッドを女性だけで組み立てる体験会を開催。大瀧さんは地域の女性に問いかけます。「避難所に離乳食や鏡があるかご存知ですか？ 知ればきっと防災活動に参画したくなるはず」。女性防災グループがあるのは、現在 5 地区。「市内全地区に女性防災グループが生まれることが、私の目標です」。

(取材時：2018 年 8 月)

こんな講演・相談に対応できます

- 非常用持出袋の中身について
- 「避難所運営の手引き」の内容紹介・制作秘話
- 避難所づくりの要点
- 四日市市の防災活動事例

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは
こちら

